みんなで

のりこえよう通信

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長室から

令和　2　年　5月　8日　　NO.16

交流の世紀

少し前のNHKの歴史ものの特集に「映像の世紀」というのがありました。終わってしまった20世紀(あっ、もう20年もたってる!)の歴史は、映像で残されたのでした。

歴史で勉強するインドのガンジ－やソ連(懐かしいなあ)のレ－ニン、独裁者ヒトラ－、日本人なら小説家の芥川龍之介や早稲田大学を創った大隈重信などが動く様子をカメラがとらえて、今に残してくれています。

20世紀は、戦争の世紀でもありました。

各国の記録として撮影された第一次世界大戦の様子が白黒フィルムで残っていたりします。

この間、「1917」という映画を見ました。第一次世界大戦の様子をカメラの長回しで撮影したものです。映像の迫力に驚きました。

映画は当然カラ－なのですが、実際の映像は白黒。でも、この白黒フィルムには、真実の圧倒的な力があります。第一次世界大戦は、各国が新兵器の開発に鎬(しのぎ)をけずった戦いでした。機関銃があっという間に生身の人間を砕いていきます。ちなみに、機関銃を作ったフランスの「ホッチキス社」という会社があります。機関銃とホッチキス。何か感じませんか。

その機関銃に対抗するために塹壕と呼ばれる天井のないトンネルを掘り進めていきます。戦争の終盤には、塹壕や鉄条網、機関銃を突破する画期的兵器、戦車が登場。発案者は、のちにイギリスの首相になるチャ－チルだともいわれています。そんな様子が「映像の世紀」に収められています。今、インタ－ネットで簡単に見れるはずです。

21世紀は、何の世紀と呼ばれるのでしょうか。たくさんの世界の人々がSNSや直接会ったりして、交流できるようになりました。

「交流の世紀」かも知れません。

兵器を開発するのではなく、お互いの考えを認め合い、発達した科学を共有する、そんな「交流の世紀」を目指したいものです。